



株主のみなさまへ

第113期 中間報告書

平成26年 4月1日～平成26年 9月30日



子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

目 次

(頁)	
1	株主のみなさまへ
	上半期事業状況
2	決算ハイライト
3	事業の概況（連結及び当社単体）
	経営方針／会社情報
5	経営方針と重点施策
6	会社概況／株式の状況
	財務諸表
7	連結
9	当社単体
	〔ご参考〕
11	トピックス
15	シミズのものづくり
17	株主情報

株主のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申しあげます。
第113期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）上半期の、
当社グループの業績及び事業活動の概況についてご報告申しあげます。
株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ相変りませぬご支援
ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成26年12月

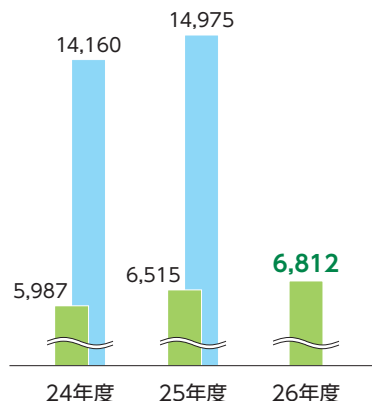
取締役社長 宮本 洋一

決算ハイライト

連結売上高

6,812億円

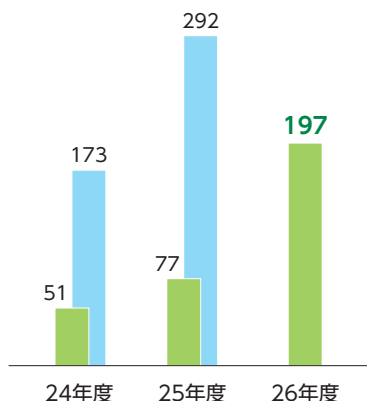
前年同期比+4.6%



連結経常利益

197億円

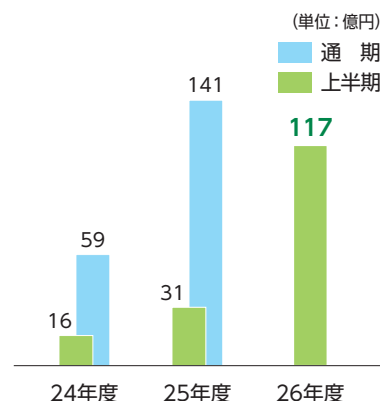
前年同期比+154.8%



連結当期純利益

117億円

前年同期比+272.5%



(単位: 億円)
■ 通期
■ 上半期

当上半期の日本経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動による影響が残り、また、企業収益の改善に一部足踏みが見られましたが、公共投資は高水準で推移し、各種経済政策の効果が下支えする中で、景気は緩やかな回復基調が続きました。

建設業界においては、製造業の設備投資に改善の兆しが見られ、民間工事が増加したことに加えて、官公庁工事でも大型案件の出件などがあり、業界全体の受注高は前年同期を上回る水準で推移しました。しかしながら、一方で労務需給や原材料価格の動向に引き続き注意を要するなど、工事利益の確保に努力が必要な経営環境が続きました。

このような状況のもと、当上半期の売上高は、完成工事高の増加などから、前年同期に比べ4.6%増加し6,812億円となりました。

利益については、完成工事総利益率の改善による売上総利益の増加や、円安に伴う為替の影響などもあり、経常利益は前年同期に比べ154.8%増加し197億円となり、純利益は117億円となりました。

また、中間配当金は、前年同期と同額の1株につき3円50銭といたしました。

なお、連結有利子負債の残高は、前期末に比べ129億円増加し3,572億円となりました。

事業の概況 (連結及び当社単体)

連 結

当上半期の事業別連結業績

売 上 高	6,812億円	前年同期比 + 4.6%
うち 建設事業	6,268億円	+ 4.1%
開発事業等	544億円	+ 10.3%
売上総利益	481億円	+ 23.7%
うち 建設事業	420億円	+ 29.1%
開発事業等	60億円	△ 3.8%
経 常 利 益	197億円	+ 154.8%
当期純利益	117億円	+ 272.5%
有利子負債残高	3,572億円	26年3月末比 + 129億円

通期の連結業績見通し

売 上 高	1兆5,000億円	前 期 比 + 0.2%
経 常 利 益	400億円	+ 36.6%
当期純利益	240億円	+ 69.1%
有利子負債残高	3,800億円以内	26年3月末比 + 357億円

■建設事業

売上高は、前年同期に比べ4.1%増加し6,268億円となりました。

利益については、売上高の増加に加え、当社の工事採算が改善したことから、建設事業全体では29.1%増加し420億円となりました。

主要な連結子会社

(株)東京鐵骨橋梁 第一設備工業(株) 片山ストラテック(株)
(株)シミズ・ビルライフケア シミズ・ノースアメリカLLC 清水建設(中国)有限公司

■開発事業等

売上高は、前年同期に比べ10.3%増加し544億円となりましたが、利益は、利益率が若干低下したことから、3.8%減少し60億円となりました。

主要な連結子会社

清水総合開発(株) (株)ミルックス (株)エスシー・マシーナリ シミズ・ファイナンス(株)
多摩医療PFI(株) シミズ・インベストメント(アジア)社

■通期の業績見通し

下半期の日本経済は、新興国経済の先行きに留意を要しますが、各種経済政策の効果により企業収益の改善が見込まれる中で、緩やかながらも景気が回復していくものと考えております。

建設業界においても、公共投資が堅調に推移し、民間設備投資の見通しも上向きつつあるなど、官公庁工事・民間工事ともに底堅く推移するものと予測されています。しかしながら、労務需給や原材料価格の動向に注意を要し、加えて施工体制をより強化するなど、利益の確保に一層の努力が必要な経営環境が続くものと思われます。

このような経営環境のもと、平成26年度通期の連結業績は、売上高1兆5,000億円(前期比+0.2%)、経常利益400億円(前期比+36.6%)、当期純利益240億円(前期比+69.1%)を見込んでおります。

また、連結有利子負債の期末残高は3,800億円以内(前期末比+357億円)を見込んでおります。

当社単体

当社単体の受注（契約）高

当上半期実績	7,723億円	前年同期比 + 1.3%
通期見通し	1兆1,400億円	前期比 △18.2%

当上半期の事業別当社単体業績

売上高	5,864億円	前年同期比 + 4.4%
うち 建設事業	5,714億円	+ 4.4%
開発事業等	150億円	+ 5.1%
売上総利益	361億円	+ 38.9%
うち 建設事業	343億円	+ 44.8%
開発事業等	18億円	△ 20.6%
経常利益	168億円	+ 266.8%
当期純利益	106億円	+ 314.2%
有利子負債残高	2,438億円	26年3月末比 △158億円

通期の当社単体業績見通し

売上高	1兆3,000億円	前期比 + 3.7%
経常利益	300億円	+ 86.0%
当期純利益	180億円	+ 168.1%
有利子負債残高	2,600億円以内	26年3月末比 + 3億円

■受注（契約）高

当社単体の受注（契約）高は、前年同期に比べ1.3%増加し7,723億円となりました。その内訳は、建設事業98%、開発事業等2%です。

建設事業受注高は、建築工事、土木工事ともに国内民間工事は減少しましたが、国内官公庁工事及び海外工事が大幅に増加したことから、前年同期に比べ3.1%増加し7,549億円となりました。

また、開発事業等の契約高は、前年同期に比べ41.6%減少し174億円となりました。

■売上高

売上高については、前年同期に比べ4.4%増加し5,864億円となりました。その内訳は、建設事業97%、開発事業等3%です。

完成工事高は、建築工事、土木工事ともに増加となり、前年同期に比べ4.4%増加し5,714億円となりました。

また、開発事業等売上高は、前年同期に比べ5.1%増加し150億円となりました。

■利益

利益については、完成工事総利益率の改善による売上総利益の増加や、円安に伴う為替差益の計上などから、経常利益は前年同期に比べ266.8%増加し168億円、純利益は106億円となりました。

なお、有利子負債の残高は、前期末に比べ158億円減少し2,438億円となりました。

主な受注工事

建築工事	埼玉県	埼玉県立小児医療センター新病院建設工事
	株式会社立飛ホールディングス	〈仮称〉ららぽーと立川立飛計画新築工事
	シンガポール共和国政府	チャンギ総合病院メディカルセンター新築工事
土木工事	東日本高速道路株式会社	東京外かく環状道路 本線トンネル（南行）大泉南工事
	国土交通省	ハッ場ダム本体建設工事

主な完成工事

建築工事	日本中央競馬会	札幌競馬場スタンド改築その他工事
	三河島駅前南地区市街地再開発組合	アトラスプラザタワー三河島新築工事
	株式会社小松製作所	栗津工場 新組立工場新築工事
土木工事	中日本高速道路株式会社	第二東名高速道路 東上トンネル他1トンネル工事
	東日本高速道路株式会社	常磐自動車道山元工事

経営方針と重点施策

当社の経営戦略は、10年後のあるべき姿を示す長期ビジョン、5年間の経営方針を定める「中期経営方針」、向こう3ヶ年の具体的な計画を毎年ローリング方式で策定する「経営3ヶ年計画」の3つから成り立っています。

環境変化に迅速に対応し、シミズグループとしての持続的成長を確固たるものにするため、『中期経営方針2010(2010～2014年度)』を見直し、平成26年7月に新たに『中期経営方針2014(2014～2018年度)』を策定しました。

『中期経営方針2014』(要旨)

今後の旺盛な建設需要への確実な対応を図るとともに、長期的な建設市場の動向も見据えながら、以下の項目を基本方針としています。

1. 建設事業の進化

- ・営業・ソリューションの進化
- ・技術の進化
- ・人材の進化
- ・現場マネジメントの進化

2. 重点3事業(ストックマネジメント、グローバル、サステナビリティ)の着実な成長

- ・投資開発・エンジニアリング事業の収益安定化
- ・グローバル事業の持続的成長、安定的な収益の確保
- ・新規事業3分野(ecoBCP事業、自然共生事業、新事業)の将来の収益化に向けた重点投資

3. 経営基盤の一層の強化

- ・技術力強化
- ・人材マネジメント強化
- ・企業体質強化
- ・CSR推進強化

上記1～3の戦略により、社会・顧客価値創造への貢献、株主価値向上を図りながら、企業価値(シミズバリュー)向上を目指します。



当社がインドネシア現地資本から受注した大型複合施設「シマトパン・ミックス・ユーズ・プロジェクト」



現場で活躍する女性技術者

「本業・建設事業の進化」を第一の柱としながらも、新たな領域にも事業基盤を確立していくための施策を打ち出す内容となっております。併せて、信頼性の高い施工体制の構築と建設業の担い手確保をねらいとした「シミズ・サプライチェーン」の強化、女性技術者の採用・育成及び女性社員の管理職への登用等も積極的に推進してまいります。

以上のような取組みを通じ、コーポレート・メッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」に込めた想いを、役員・従業員全員が日常の諸活動の中で実践し、震災復興、日本経済の更なる成長に寄与すべく、全力を尽くしてまいります。

会社概況／株式の状況

(平成26年9月30日現在)

創 業 文化元年(1804年)
資本金 743億円
売上高 1兆2,530億円(平成26年3月期)
代表者 取締役社長 宮本 洋一
従業員数 10,558名

■主要な営業所等

本 店 東京都中央区京橋二丁目16番1号
東 京 支 店 (東京都中央区) 名 古 屋 支 店 (名古屋市)
横 浜 支 店 (横浜市) 広 島 支 店 (広島市)
千 葉 支 店 (千葉市) 九 州 支 店 (福岡市)
大 阪 支 店 (大阪市) 土 木 東 京 支 店 (東京都中央区)
神 戸 支 店 (神戸市) 土 木 横 浜 支 店 (横浜市)
四 国 支 店 (高松市) 国 際 支 店 (シンガポール)
北 海 道 支 店 (札幌市) 投 資 開 発 本 部 (東京都中央区)
東 北 支 店 (仙台市) エンジニアリング事業本部 (東京都中央区)
北 陸 支 店 (金沢市) 技 術 研 究 所 (東京都江東区)
関 東 支 店 (さいたま市)

■海外営業網

大 連	ホーチミン	ダッカ	ヴロツワフ
上 海	バンコク	バンガロール	プラハ
広 州	ビエンチャン	グルガオン	ロンドン
香 港	ヤンゴン	タシセント	ニューヨーク
台 北	クアラルンプール	ドバイ	アトランタ
マニラ	シンガポール	イスタンブール	ケレタロ
ハノイ	ジャカルタ	ルサカ	

■株式の状況

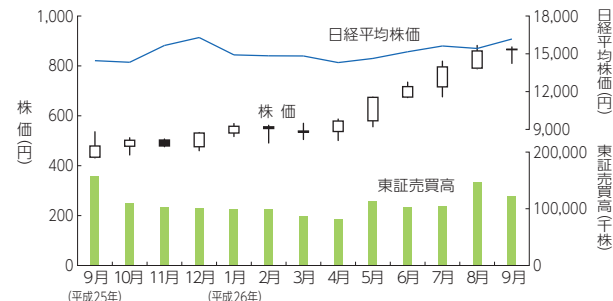
発行可能株式総数 1,500,000,000株
発行済株式の総数 788,514,613株
株主数 50,957名

■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
清水地所株式会社	60,129	7.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	41,763	5.3
社会福祉法人清水基金	38,100	4.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,313	3.7
清水建設持株会	22,455	2.9
一般財団法人住総研	17,420	2.2
株式会社みずほ銀行	16,197	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	11,587	1.5
第一生命保険株式会社	10,564	1.3
富国生命保険相互会社	10,552	1.3

※持株比率は、自己株式(2,538千株)を控除して計算しております。

■株価及び売買高の推移



連結貸借対照表 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期末 平成26年9月30日現在	前期末 平成26年3月31日現在	増 減
(資産の部)			
流動資産	9,270	9,449	△ 178
現金預金	1,190	1,414	△ 223
受取手形・完成工事未収入金等	3,848	4,784	△ 935
有価証券	1,200	420	780
販売用不動産	79	145	△ 66
未成工事支出金	697	554	142
開発事業支出金	445	427	18
PFI事業等たな卸資産	620	630	△ 9
その他	1,198	1,084	113
貸倒引当金	△ 10	△ 12	2
固定資産	6,051	5,677	374
有形固定資産	2,371	2,306	64
無形固定資産	44	42	1
投資その他の資産	3,636	3,328	307
投資有価証券	3,455	3,158	297
その他	204	226	△ 22
貸倒引当金	△ 24	△ 57	33
資産合計	15,322	15,126	195

(資産の部)

受取手形・完成工事未収入金等は減少しましたが、有価証券に含まれる譲渡性預金の増加に加え、株式相場の上昇に伴う当社保有株式残高（投資有価証券）の増加などにより、前期末に比べ195億円増加しました。

科 目	当上半期末 平成26年9月30日現在	前期末 平成26年3月31日現在	増 減
(負債の部)			
流動負債	7,640	7,899	△ 259
支払手形・工事未払金等	3,577	4,359	△ 782
短期借入金	1,301	1,277	23
1年内返済予定の ノンリコース借入金	74	59	15
1年内償還予定の ノンリコース社債	17	-	17
未成工事受入金	1,382	1,137	244
完成工事補償引当金	32	31	0
工事損失引当金	265	292	△ 27
その他	988	740	247
固定負債	3,639	3,466	173
社債	700	700	-
ノンリコース社債	182	-	182
長期借入金	869	1,067	△ 197
ノンリコース借入金	425	337	88
関連事業損失引当金	36	38	△ 2
退職給付に係る負債	616	625	△ 9
その他	809	697	112
負債合計	11,280	11,366	△ 86
(純資産の部)			
株主資本	2,640	2,551	88
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	0
利益剰余金	1,480	1,391	88
自己株式	△ 15	△ 15	△ 0
その他の包括利益累計額	1,364	1,170	193
少数株主持分	37	37	△ 0
純資産合計	4,042	3,760	281
負債純資産合計	15,322	15,126	195
1株当たり純資産額	510.42 円	474.43 円	

(負債の部)

未成工事受入金が増加したものの、支払手形・工事未払金等が減少したことなどにより、前期末に比べ86億円減少しました。

(純資産の部)

当社保有株式残高の増加に伴うその他有価証券評価差額金（その他の包括利益累計額）の増加などにより、前期末に比べ281億円増加しました。

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

連結損益計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前年同期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前年同期比
売上高	6,812	6,515	4.6%
完成工事高	6,268	6,021	4.1%
開発事業等売上高	544	493	10.3%
売上原価	6,331	6,126	
完成工事原価	5,847	5,696	
開発事業等売上原価	483	430	
売上総利益	481	389	23.7%
完成工事総利益	420	325	29.1%
開発事業等総利益	60	63	△ 3.8%
販売費及び一般管理費	320	331	
営業利益	160	57	178.3%
営業外収益	68	42	
営業外費用	31	23	
経常利益	197	77	154.8%
特別利益	9	1	
特別損失	0	0	
税金等調整前当期純利益	206	79	161.2%
法人税等	90	44	
少数株主損益調整前当期純利益	115	34	
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 1	3	
当期純利益	117	31	272.5%

1株当たり当期純利益 14.92円 4.01円

売上高は、完成工事高が増加したことなどから、前年同期に比べ4.6%増加し6,812億円となりました。

営業利益は、完成工事総利益率の改善による売上総利益の増加などから、前年同期に比べ178.3%増加し160億円となりました。

経常利益は197億円、特別損益や法人税等を加減した当期純利益は117億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前年同期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	増 減
現金及び現金同等物の期首残高	1,834	2,166	△ 331
営業活動によるキャッシュ・フロー	593	△ 159	753
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 141	△ 107	△ 34
財務活動によるキャッシュ・フロー	100	△ 222	323
その他の増減額	3	33	△ 30
現金及び現金同等物の増減額	556	△ 455	1,011
現金及び現金同等物の上半期末残高	2,390	1,710	680

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益206億円を計上したことに加え、売上債権の回収などにより593億円の資金増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当社における賃貸事業用資産の取得などにより141億円の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、PFI事業や開発事業でのノンリコース借入金の増加や、ノンリコース社債の発行などにより100億円の資金増加となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当上半期末の残高は、前期末に比べ556億円増加し2,390億円となりました。

当社単体

貸借対照表 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期末 平成26年9月30日現在	前期末 平成26年3月31日現在	増 減
(資産の部)			
流動資産	7,366	7,603	△ 236
現金預金	700	912	△ 212
受取手形	127	113	14
完成工事未収入金	3,383	4,404	△ 1,021
有価証券	1,200	420	780
販売用不動産	31	51	△ 19
未成工事支出金	645	536	108
開発事業支出金	208	190	18
その他	1,079	985	93
貸倒引当金	△ 9	△ 11	2
固定資産	5,658	5,275	382
有形固定資産	1,945	1,885	60
無形固定資産	31	31	△ 0
投資その他の資産	3,681	3,359	322
投資有価証券	3,540	3,221	319
その他	166	196	△ 30
貸倒引当金	△ 25	△ 58	33
資産合計	13,024	12,879	145

科 目	当上半期末 平成26年9月30日現在	前期末 平成26年3月31日現在	増 減
(負債の部)			
流動負債	6,852	6,963	△ 110
支払手形	94	118	△ 24
工事未払金	3,016	3,638	△ 621
短期借入金	916	954	△ 37
未成工事受入金	1,243	1,055	188
完成工事補償引当金	30	30	0
工事損失引当金	259	286	△ 26
その他	1,290	881	409
固定負債	2,779	2,791	△ 12
社債	700	700	-
長期借入金	821	942	△ 121
退職給付引当金	465	470	△ 4
関連事業損失引当金	43	43	-
その他	748	635	113
負債合計	9,632	9,755	△ 123
(純資産の部)			
株主資本	1,953	1,875	77
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	0
利益剰余金	789	711	77
自己株式	△ 10	△ 10	△ 0
評価・換算差額等	1,439	1,248	191
純資産合計	3,392	3,123	268
負債純資産合計	13,024	12,879	145
1株当たり純資産額	431.63 円	397.42 円	

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

損益計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前年同期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前年同期比
売上高	5,864	5,615	4.4%
完成工事高	5,714	5,472	4.4%
開発事業等売上高	150	142	5.1%
売上原価	5,502	5,354	
完成工事原価	5,371	5,235	
開発事業等売上原価	131	119	
売上総利益	361	260	38.9%
完成工事総利益	343	237	44.8%
開発事業等総利益	18	23	△20.6%
販売費及び一般管理費	250	258	
営業利益	111	2	-
営業外収益	85	61	
営業外費用	28	17	
経常利益	168	45	266.8%
特別利益	8	1	
特別損失	0	0	
税引前当期純利益	177	47	276.5%
法人税等	70	21	
当期純利益	106	25	314.2%
1株当たり当期純利益	13.52 円	3.27 円	

■中間配当について

- 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき 金3円50銭 総額 2,750百万円
- 剰余金の配当が効力を生じる日
平成26年12月2日

受注 (契約) 高・売上高・繰越高の内訳

(単位：億円)

区 分	前期繰越高	当上半期 受注 (契約) 高	当上半期 売上高	次期繰越高
建設事業				
建 築	9,650	5,269	4,613	10,307
土 木	3,376	2,279	1,101	4,554
計	13,027	7,549	5,714	14,861
開発事業等	355	174	150	380
合 計	13,382	7,723	5,864	15,242

建設事業受注高の内訳

(単位：億円)

区 分	当上半期 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前年同期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	増 減
建 築			
国 内	4,728	5,998	△ 1,270
海 外	541	188	353
計	5,269	6,187	△ 917
土 木			
国 内	2,002	1,026	976
海 外	276	111	165
計	2,279	1,137	1,141
合 計			
国 内	6,730	7,025	△ 294
海 外	818	299	518
計	7,549	7,324	224

[ご参考]

トピックス

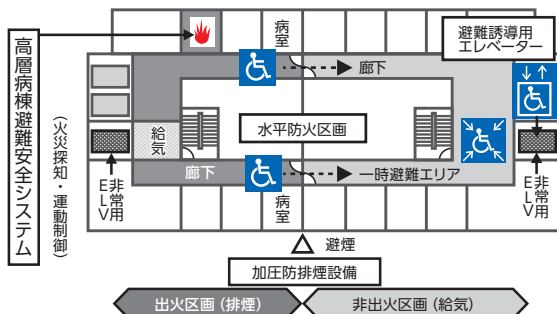
災害時の更なる安全確保へ

医療施設向けの防災技術の実用化を推進

医療施設において、火災や地震など災害発生時の安全性向上は重要な課題となっています。当社では、病院の高層化に対応した避難システムや、手術室の揺れを低減する免震システムを開発し、実用化を進めています。

国内初、非常用エレベーターを避難誘導に利用

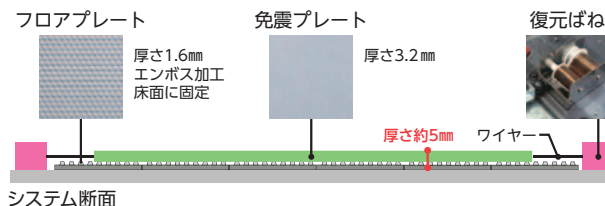
当社では、順天堂並びに早稲田大学との共同研究を経て、「高層病棟避難安全システム」を開発。火災時の避難は階段の使用が原則ですが、病院では自力で避難できない患者も多く、困難を伴います。本システムは、出火を自動検知すると、防災区画の扉を閉鎖してフロアを2つに分割、加圧防排煙設備によって出火区画では排煙し、同時に非出火区画に新鮮な空気を供給・加圧して煙の侵入を防ぎ、一時避難エリアへ短時間で避難が可能となります。また、非常用エレベーターの火災初期の避難誘導用としての使用は、東京消防庁の新指導基準に基づく初めての認可事例となり、このほど、東京都文京区の順天堂医院B棟高層棟に採用されました。



高層病棟避難安全システムの概要図

厚さ5mm弱の免震装置で手術室の揺れを大幅低減

当社と新日鐵住金は、共同で手術室向けの床免震システム「シミズ安震フロア」を開発しました。薄い鋼板2枚を重ねたシンプルな構造で、装置の厚さはわずか5mm弱。地震時には上部の鋼板がスライドすることで高い免震効果を発揮し、手術台や医療器具の転倒を防ぐとともに、地震直後から医療行為の継続が可能となります。本システムにより、安心して手術ができる環境を提案していきます。



システム適用イメージ

福島・新地町で農業分野プロジェクト

高糖度ミニトマトの栽培事業へ参画

当社では、サステナビリティ事業の強化に向け、植物工場など農業分野でのプロジェクト創出に取り組んでいます。その活動の1つとして、福島県相馬郡新地町で、地域復興に資する高糖度ミニトマトの栽培事業へ参画しています。

太陽光利用型植物工場で「サンゴ砂礫(されき)農法」を実証

今回の栽培実証事業は、復興庁と経済産業省による2013年度「先端農業産業化システム実証事業」で、昨年7月より、当社のコーディネートのもと、新地町役場の支援を受け、新地アグリグリーン、明治大学、ヨークベニマルが参画し、「サンゴ砂礫農法」(明治大学特許保有)により大規模生産システムの確立とブランド化を目指し、取り組んできたものです。



栽培実証事業で5品種の高糖度ミニトマトを栽培。右の写真はそのうちの1品種

この農法は、土壌を用いないことで害虫の発生を大幅に減少させるとともに、サンゴ砂礫の特徴を活かすことで水分や養液管理が容易となる栽培方法。従来の栽培方法では、高糖度と多量収穫の両立が困難であったものを、0.3haの太陽光利用型植物工場を整備し、2013年10月下旬に苗を定植し、2014年2月には、高糖度ミニトマトの多量収穫を実証のうえ、「スイートマシェリ」のブランド名で初出荷しました。

被災したトマト栽培施設の復旧を支援

栽培実証事業に参画した新地アグリグリーンは、東日本大震災で所有するトマト栽培施設7haの1/4にあたる1.6haが倒壊する被害を受けました。その被災した施設を太陽光利用型の栽培施設として復旧するにあたり、当社はその施設のトマト栽培用の設備工事を担当し、2014年6月に完成しました。



今年9月、復旧した1.6haの栽培施設での苗定植の様子

トピックス

超大型インフラ整備プロジェクトに挑む

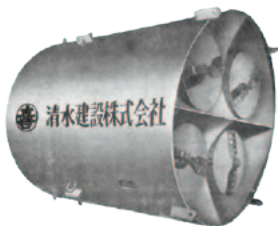
「東京外かく環状道路本線トンネル工事」に参画

当社は今年4月、「東京外かく環状道路本線トンネル工事」のうち、「(南行) 大泉南工事」をJV代表企業として受注しました。この超大型プロジェクトに、当社はこれまで培ってきたシールド工事のノウハウを集結させて取組んでいきます。

技術開発に注力し、実績を積み重ねて半世紀

シールド工法とは、鋼製の円筒機をジャッキ推力で地中に圧入しながら掘削を進め、その後方で掘削壁面に工場生産したセグメント（トンネルの外壁となるブロック）を組立てて、地下にトンネルを構築する技術です。

当社は、1964年にこのシールド工事に初めて取り組みました。以来、半世紀にわたり、大深度や大断面、急勾配や急曲線などの施工を可能にすべく技術開発を進め、高速道路や排水路、雨水放流管など、多くの工事で実績を積み重ねてきました。2014年9月現在、当社では25件のシールド工事現場が稼働しています。



1964年に開発した初期の機械掘り式シールド機

国内最大のシールド工事で超高速施工を目指す

当社JV（当社、熊谷組、東急建設、竹中土木、鴻池組）が担当する「(南行) 大泉南工事」では、大泉ジャンクションから井の頭通り付近まで、深さ40m超の大深度地下で、片側3車線の大断面のシールドトンネル約7kmを掘削します。本工事のシールド外径は一般的なオフィスパイルの4階分に相当する約16m。当社がこれまで施工した中

で最大径だった東京湾横断道路（アクアライン）の外径約14mを上回る、国内最大断面のシールド工事です。また、本工事最大の課題はこれを超高速施工することであり、平均月進500m（東京湾横断道路の平均月進の2.5倍）の掘削を計画しています。

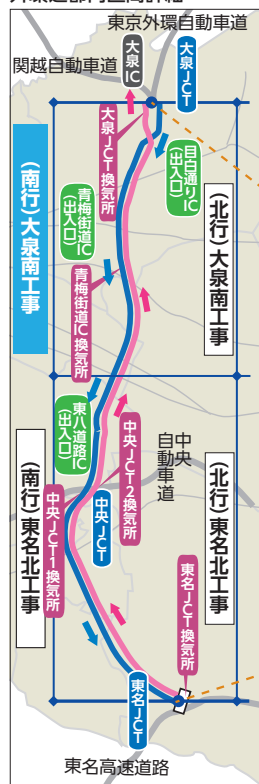
今後は、高速掘進を安全かつ確実に行うために目に見えない部分を可視化するモニタリング技術とその管理方法を詳細に検討し、設備計画、シールド機の製作などを行ったうえで、掘進に着手し、2019年10月に竣工する予定です。



1997年8月竣工の東京湾横断道路の工事で使用したシールド機（当社は同工事で川崎トンネル浮島南工区をJV代表企業として担当）

■東京外かく環状道路本線トンネル（南行）大泉南工事概要

外環道都区内間詳細



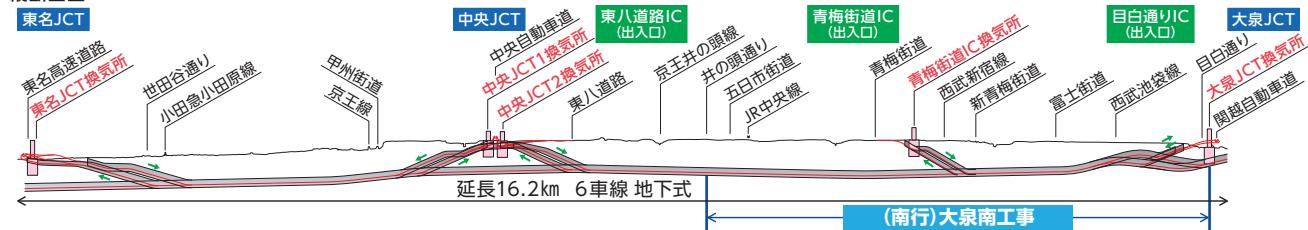
所在地：東京都練馬区大泉町～武蔵野市吉祥寺南町
 発注者：東日本高速道路株式会社
 設計：日本シビックコンサルタント株式会社
 工期：2014年4月～2019年10月
 工法：泥土圧シールド工法
 規模：掘削延長 6,986m, 掘削外径 16.1m, セグメント外径 15.8m

外環道全体図

(当社施工中工事 ■)



縦断面図



シミズのものづくり

安田女子大学新5号館

安田女子大学新5号館は、2014年4月に新たに開設した看護学部の主たる校舎です。2015年に母体である安田学園が100周年を迎える同大学は、新学部開設により、国内で最も学部数が多い女子総合大学

(7学部, 10学科, 1短期大学) として、新たな歴史の一歩を踏み出しました。今回の建設ではお客様のニーズを捉えた企画を提案し、都度変更要望も取入れながら、短工期の中、当社の総力を注ぎ、設計施工で取組みました。



新5号館の全景

■工事概要

所在地：広島県広島市安佐南区
発注者：学校法人安田学園
設計・監理：当社
工期：平成25年3月～平成26年2月



建物中央の吹き抜け空間。壁面にランダムに配された窓から教室内の活動が見られる



1階食堂。天井のデザインは木の枝をモチーフにしている



キャンパスの動線の中心となるガレリア（屋根を設けた歩行者空間）

お客様から



安田女子大学
学長 瀬山 敏雄 様

本学の新5号館建設にあたっては、2012年5月に設計コンペを実施しました。これまでの本学の建物にはないコンセプト、明るさと落ち着きのある施設デザイン、今の時代に求められる大学の建物、設備のあり方に対して明確な主張がある提案を高く評価し、御社を設計・施工者に選定しました。また、コンペ時のプレゼンテーションも巧みで、非常に印象に残るものでした。今年4月から新5号館の運用が始まりましたが、建物の真価を問われるのはこれからです。10年先、20年先も存在感のある校舎として光を放ち続けることを期待しています。

お客様に学び、一緒につくりあげました

今回の工事では、通学時間や授業時間、行事開催などに配慮しながら、既存校舎の解体も含めて、約1年間の短工期での竣工を成し遂げました。施工中は、お客様の要望を都度取入れながら、設計変更への対応も実施。平面プランや動線に関する考



工事長 栗田 健史

え方など、お客様の意見には学ぶべきものが多く、「お客様と一緒にものをつくっている」という実感がありました。

何としてでも工期内で完成させる。その想いを現場全体で共有し、着工から走り続けてきたので、無事に建物を引き渡したときには、「やりきった」という強い達成感を得ることができました。

キーワードは「3つのつながり」

当社のプロポーザル本部と設計本部の協働により受注した本建物の設計では、3つのつながりをキーワードにしました。1つ目は「未来へのつながり」。フロアを広い無柱空間とし、それを1階から6階まで積層させることで、様々な使い方ができ、将来の教育システムの変化にも対応できる空間を確保しました。



設計担当 根岸 健一

2つ目は「キャンパスのつながり」。校舎群の中央に位置する本建物が動線の中心となるよう、建物内にガレリアを配置しました。最後は「人のつながり」。大きく張り出した緑化バルコニーや吹き抜け周囲のラウンジなど、学生が交流、休憩する場所を随所に設けました。

計画通りのコンクリート打設が大きな自信に

教育施設の現場を担当するのは今回が初めてでした。また、CFT（コンクリート充填鋼管構造）やPCバルコニーなど、初めて担当する工事のため、工事長や先輩に学びながら、一つひとつの作業が丁寧かつ迅速に進むように管理しました。中でも、



施工担当 藤本 法正

自分で施工計画を立てたCFT工事では、ポンプ車から配管を70mほどつなぎ、圧入工法でコンクリートを打設。自分の計画通りの結果となり、大きな自信となりました。

栗田工事長のもと、工事関係者全員が常に前を向いて取組んだ本工事。この現場で味わった「ものづくりへの一体感」は、忘れられない経験となりました。

株主情報

株主様向けイベント開催のご報告

株主様を対象に、平成24年の運用開始から約2年が経過した本社の見学会を10月5日に開催しました。

多数の方にご来場いただき、執務室では、温度・湿度・気流を制御する空調システムや太陽光を最大限に活用した自動制御の照明システム、建物の地下では免震装置を紹介し、本社ビルのコンセプトである「省エネと快適性を両立し、地球環境に配慮した災害に強い建物」を実感していただきました。

参加された株主様からは、「免震装置を間近で見られたのは印象的」、「省エネに対する様々な取組みと技術は興味深かった」などのご意見を頂戴し、多くの最先端技術について理解を深めていただく良い機会となりました。今後も株主様を対象としたイベントを継続して実施してまいります。



本社見学会の様子

株主優待品の贈呈について

平成27年3月期の株主優待品は、前回に引き続き、当社東京木工場で製作した木製グッズといたします。平成27年3月31日現在のご所有株式数に応じて、優待品をご登録の住所にお送りいたします。送付時期は平成27年7月末頃を予定しております。

ご所有株式数	平成27年3月期の優待品
1,000株以上5,000株未満	鍋敷き
5,000株以上10,000株未満	マグネット(4個)
10,000株以上	トレイ



優待品イメージ

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 ウェブサイト <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告掲載方法 電子公告

公告掲載URL (<http://www.shimz.co.jp/>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

- 株式に関する各種
お手続きについて
- ☐株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、お取引の証券会社にお問合せください。
 - ☐特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行（左記連絡先）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
 - ☐未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

上場株式の配当金に関する『源泉徴収税率』変更のご案内

平成26年以降、上場株式の配当金には、復興特別所得税を含め、**20.315%※の源泉徴収税率が適用されています。**

※所得税15%、復興特別所得税0.315%、住民税5%

	平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで	平成50年1月1日から
所 得 税 (含む復興特別所得税)	15.315%	15%
住 民 税	5%	5%
合 計	20.315%	20%

☐平成26年1月1日以降にお支払いを受ける上場株式の配当金には、原則として20%（所得税15%、住民税5%）の源泉徴収税率が適用されています。

☐また、平成25年1月1日から平成49年12月31日まで、復興特別所得税として所得額×2.1%が追加課税されることになっております。

■源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合は住民税が徴収されません。

■このご案内は、上場株式の配当金に係る税金について、一般的な情報をご提供するために作成されたものであり、内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄りの税務署等にお問合せください。

ホームページのご案内



<http://www.shimz.co.jp/>

当社ホームページでは、「株主・投資家情報」をはじめ、「実績・技術ソリューション」、「CSR活動」など、さまざまな情報を掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

表紙写真
札幌競馬場スタンド(北海道札幌市)
設計/株式会社松田平田設計
監理/JRAファシリティーズ株式会社

清水建設株式会社

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号
TEL 03-3561-1111 (大代表)
<http://www.shimz.co.jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

